

松本市教育研修センターだより

No.30 令和6年9月30日

子どもも大人も 学びのシンカ

松本市の教育は、「子どもが主人公 学都松本のシンカ」をテーマとした教育大綱に基づき、すべての子どもたちを大切にすることを目指しています。9月には、子どもも大人も共に心も体も健康で幸せな学校づくりについて考えるための研修が9回開催されました。

2019年のGIGAスクール構想開始から5年が経ち、学校におけるICT活用がどのように先生方の働き方改革につながるかを、信州大学の佐藤先生にご講演いただきました。また、「先生の幸せ研究所」の澤田先生をお招きし、ワークショップ形式のミドルリーダー研修を実施し、より良い学校組織づくりについて体験的に学びました。さらに、埼玉大学の岩川先生と元大空小学校校長の木村先生には、各学校を訪問していただき、子どもたちを真ん中に、先生方との対話を通して深い学びの場を提供していただきました。その他にも、教科に関する研修が数多く開催され、先生方の学びは日々深まっています。

教師の学び方・働き方が変わると授業の発想も変わる！ （研究主任・端末活用委員合同研修会）



8月20日、「授業観を問い直す～ICTで画一・一律を超えていく～」と題して、文部科学省・学校DX戦略アドバイザーなどを歴任されている佐藤和紀先生（信州大学准教授）にご講演いただきました。佐藤先生からは、教師の学び方・働き方が変わると授業の発想も変わることを、数々の事例を元に教えていただきました。講演中、チャットで意見交換をする形式を取り、参加者全員がリアルタイムに

意見を出し合い、学びを深める機会となりました。また、画一・一律の授業を超えていくカギは校務のDXであり、教師が日常的にクラウド感覚を磨いていくことの重要性も強調されました。

今回の研修には、各校の研究主任と一人一台端末授業活用検討委員の2名が参加しました。この2名がチームとなり、GIGAスクール構想の実現に向けて推進役を担っていただく予定です。研修の最後には、各校の推進に向けた行動目標をスプレッドシートにまとめました。形だけの目標設定に終わることなく、研修後すぐに各校で授業改善や校務効率化に向けて動き出したという報告が多数寄せられています。（市教委としては、校務のクラウド利用ガイドラインの改定を進めており、11月には各校にお知らせする予定です。）

今回の研修は、これまでの画一・一律の授業や学校文化を問い直し、新たな学びの視点を獲得する貴重な機会となりました。

参加者の感想

- ・教師の学びと子どもの学びは相似形だという話は聞いたことがありましたが、教師の働き方と子どもの学び方は相似形だということを聞き、はっとさせられました。教師自身がよさを実感し、学習環境づくりを充実させたいと思いました。
- ・「手を止めない」「常に脳を動かし続ける」というチャットに発信しながら講義を聞く研修への参加の仕方は、新鮮そのものでした。また、ICT担当の先生と一緒に参加することで、学校の様々な問題を共有化できたため、有意義な研修となりました。

ようこそ 木村泰子先生～芳川小学校&信明中学校～

「結 まつもと学びの日」でご講演された木村泰子先生が、芳川小学校(11日)と信明中学校(12日)を訪問され、全学年の児童・生徒を対象に道徳の授業を行いました。木村先生は各学年の実態に合わせ、子どもたちの言葉から問いを深め、共に授業を作り上げていくという、素晴らしい実践を見せてくださいました。特に大切にされていたことは「自分のことは自分で決める」という自律心を育むことでした。最初は戸惑っていた子どもたちも、一人一人の言葉に丁寧に耳を傾け、そこから対話を深めていく木村先生の姿から、自分の言葉で語ることの大切さに気づかせてくれるものでした。

放課後には、先生方との対話を通じた研修が行われ、参加した先生方は、木村先生の言葉一つ一つから自身の教育観を問い直し、これからの学校づくりへの意欲を新たにされた様子でした。



芳川小学校低学年道徳

○「学校のルールだから」となんでも納得するんじゃなくて、なぜそのルールが必要なのか、本当にそのルールで良いのかと考えることも大切なんだなと思いました。よりよい学校にするためには、どうしたらいいか。より深く考えるキッカケになりました。(6年)

○みんなの学校は、みんなで作れるのだなと思いました。芳川小学校の一人として、だれもかなしい思いをしない学校にしたいと思いました。(4年)

○ともだちにもっとやさしくしよっておもいました。(1年)



信明中学校学年道徳

○十年後に、自分が生きていく社会は誰かが作ってくれた社会に入っていくのではなく自分が作っていくというのを改めて実感しました。自分のことや、普段の何気ないことを深く考える機会になりました。主体性・当事者意識を大切に周りの意見も大切に生活していきたいです。(中3生)

○当たり前をこわす。その言葉が一番印象に残っています。普通という言葉があるから特別という言葉があり区別が生まれる。すべての生徒が偏見や差別なく学校に来られるような支援をしていかないといけないということをおっしゃっていて素敵な考えだと思いました。(教諭)

小学生も中学生も先生も、木村先生の熱い思いとやさしさに包まれた素敵な時間になりました。

ミドルリーダー研修～当たり前を問い直して、よりよい学校づくりへ～

「先生の幸せ研究所」の澤田先生は、ミドルリーダー研修において、「バイアスに気づくこともミドルリーダーの仕事の一つ」と語り、ワークショップ形式の研修を行いました。学校の中で当たり前だと考えられていること(バイアス)に対して、その価値や必要性について参加者全員で議論し、より良い学校組織・学校環境について深く考察しました。「これってどうなんだろう?」と、普段思っているもなかなか考えが伝えられないという先生も、自由に語っている姿が印象的でした。



参加者の感想

- ・バイアス(思い込み)は、本人の背景やきっかけがあると聞き、子どもたちへの指導をする際も自分のバイアスと子どもたちのバイアスの違いを認め、そこを埋めるには、対話が重要だと感じさせられました。今までは「こうあるべき」と言われることも多く、自分の価値観も凝り固まってしまっていたように感じられたので、もっと柔軟に「本当にそうかな?」「こうしたらどうかな?」と立ち止まって考えることも大切だと感じさせられました。
- ・まず、自分自身の思い込みに気づく努力をしたいと思います。行事の計画の際には、その意義を問い直すとともに、多くの先生方の意見要望に耳を傾けることも大切にしたいです。(中略)また、先生方が様々なアイデアを気軽に出せるようなシステムを考えてみたいと思います。